

食糧支援 ニュースレター



2008.4.11
Vol.24

TOPICS

- 穀物高騰 WFPの食糧支援にも大きな支障
- 第4回アフリカ開発会議およびサミットに向けて
- アフリカの飢餓撲滅のためのチャリティー・イベント「ウォーク・ザ・ワールド FOR アフリカ ～地球のハラペコを救え。～」開催
- 横浜市のアフリカ支援キャンペーン「ヨコハマ・フォー・アフリカ」
- NHKが「国連特派員協会賞」受賞 賞金をWFPに寄付
- 私たちのWFP支援 松下電工株式会社
- ハリウッドスターから多額の寄付
- 国連WFP協会 2007年寄付実績報告

穀物高騰 WFPの食糧支援にも大きな支障

世界的な穀物価格の高騰が、途上国の人々の暮らしを直撃しています。アフガニスタンではこの1年余りで小麦の値段が67%上昇し、自分で農作物を生産している人以外は、今や所得の75%をも食費に費やさなければならなくなりました。西アフリカのシエラレオネでは米の値段が1年前と比べて4割上昇。中米のエルサルバドルでも、同じ金額で買える食糧の量が一年半前の半分になってしまい、人々は食事の量を半分に減らすことを余儀なくされています。

価格高騰の原因としては、中国やインドなどで食生活が豊かになるにつれて、家畜の飼料としての穀物需要が急増していること、環境にやさしいとして注目を集めるバイオ燃料の原料として穀物が使われていること、オーストラリアなどの主産地が干ばつなどの自然災害に襲われ不作に終わったこと、原油高により食糧の輸送コストや肥料の値段が上がっていることなどが挙げられます。

世界には1日1ドル以下で生活する人々が10億人以上もいますが、これまでも収入の半分以上を食費に当てていた人々にとって、さらなる穀物の値上がりは死活問題です。一部の国では、食糧価格の高騰に端を発する暴動も起きています。

支援の必要性が増している一方で、WFPの支援活動には大きな支障が生じています。穀物価格高騰により、同じ予算で配給できる食糧の量が減ってきているためです。

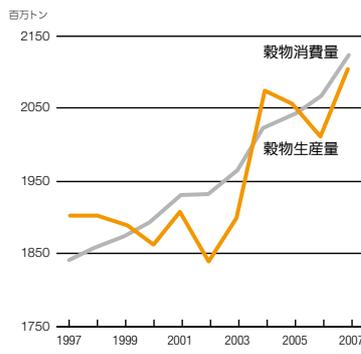
WFPは2008年度、78カ国で7,300万人に食糧支援を行う予定ですが、この事業計画を立てた当初は29億米ドルの予算が必要になると試算していました。しかし、穀物価格の高騰や原油高による輸送コストの上昇に伴い見直しを迫られ、結局、同じ規模の支援を行うには、当初の計画より5億ドル多い34億米ドルが必要であると修正せざるを得なくなりました。また、これまでは自分の収入で食糧が買ったものの値上がりにより買えなくなり、新たにWFPの支援を必要とする人も増えており、さらに必要な経費が増えることも予想されます。

WFPは経費削減のために、配給する食糧を支援現場からなるべく近いところ（同じ国内もしくは近隣国）で購入したり、配る食糧の内容を値段の安いものに変えたりするなど効率化のためにありとあらゆる工夫をしています。が、このまま資金が集まらなければ、WFPは今後、支援する人の数を減らすか、もしくは一人当たりの配給量を減らすかという究極の選択をしなければならないかもしれない事態に直面しています。3月20日、シーランWFP事務局長は福田首相をはじめ、各国首脳らに書簡を出し、5月1日までに追加資金を拠出するよう要請しました。

食糧難が続くと、栄養失調やその他の病気にかかる人が増えます。学校給食が減ったり停止したりす

ると、学校を欠席したり退学して働かなければいけなくなったりする子どもが増えると懸念されます。さらに、食糧を求めて難民にならざるを得ない人も増えます。人々の生活の基本である「食」をどう確保するかは、世界の安全にも関わる大問題です。

この世界的な緊急事態をご理解いただき、どうぞ皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。



世界の穀物生産量と消費量 (1997年～2007年) 「FAO Crop Prospects and Food Production 2008年2月」
穀物の国際価格 (2006年1月～2008年1月) 「FAO Crop Prospects and Food Production 2008年2月」

第4回アフリカ開発会議およびサミットに向けて

5月28～30日、日本政府は第4回アフリカ開発会議（The Fourth Tokyo International Conference on African Development、略称 TICAD IV）を横浜で開催します。TICAD は日本が国連および世界銀行と共催する、アフリカ開発をテーマとする国際会議です。1993年に開始された TICAD は、1998年の TICAD II、2003年の TICAD IIIと5年ごとに開催され、2004年11月には、アフリカ・アジア間の貿易・投資の促進を目的とした、「TICAD アジア・アフリカ貿易投資会議」も開かれました。

TICAD IVは、近年のアフリカにおける政治・経済両面での前向きな変化を後押しするため、「元気なアフリカを目指して（Towards a Vibrant Africa）」との基本メッセージの下、今後のアフリカ開発への国際社会の取組みを具体的に打ち出すことを目的として開かれます。具体的には、①成長の加速化、②ミレニアム開発目標の達成を含む「人間の安全保障の確立」、③平和の定着と民主化、④環境問題・気候変動問題への取組みに国際社会の知識・ノウハウ及び資金を結集することを目

標としています。また、7月に日本で開かれる北海道洞爺湖サミットの関連会合のひとつとして位置づけられており、その成果がサミットで取り上げられるなど、重要な意味合いを持っています。

WFPは TICAD IVおよびサミットに向けて、特に政府および関係者に対して、①学校給食への支援、②食糧の現地調達ー地産地消ーの推進、③気候変動に対する適応・緩和策について、理解を呼びかけています。学校給食はミレニアム開発目標に広く貢献でき、またアフリカ諸国にも支持されている具体的で効率的なプログラムです。また、国際的な食糧価格の高騰や、温暖化の影響にもよるとされる自然災害の頻発などのグローバルな課題に対応するために、従来にも増して、地産地消の重要性や、気候変動への柔軟かつ迅速な対応が求められています。特に WFP の活動の柱である学校給食については、アフリカ開発の有効な取り組みのひとつとして取り上げられるよう、積極的に働きかけています。



アフリカの飢餓撲滅のためのチャリティー・イベント「ウォーク・ザ・ワールド FOR アフリカ ～地球のハラペコを救え。～」開催

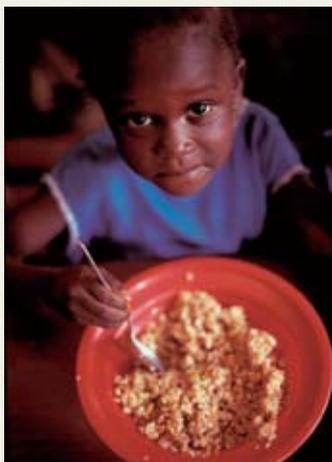


元気なアフリカを応援するためのチャリティー・イベント「ウォーク・ザ・ワールド FOR アフリカ ～地球のハラペコを救え。～」を5月25日（日）に横浜みなとみらい地区で開催します。これは、アフリカでおよそ2億人を苦しめている飢餓をなくすために、参加者がいっせいに横浜を歩くというイベントで、飢餓問題への認識を高めると共に、参加費の一部（1,000円の参加費のうち500円以上）を募金とすることを目的としています。

募金は、WFPがアフリカ各国で実施する「学校給食プログラム」にあてられます。これは、栄養価の高い給食を提供することで子どもたちを学校に呼び寄せ、身体の発育を助けると同時に、教育の機会を拡げ、就学率を上げることを目的とする取り組みです。現在、世界的な穀物価格の高騰により、アフリカでも食糧を買えなくなったり、食事の量を減らさざるをえなくなったりした人が増えています。また、働いて生計を助けるために学校に通えなくなる子どもも増えてくと予想されており、アフリカの子どもたちへの支援は今までに重要となっています。

イベント当日は、メイン会場となるみなとみらい地区の臨港パークで開会式を行い、ウォーキングをスタートします。赤レンガ倉庫、山下公園、港の見える丘公園、元町公園、イタリア山庭園といった、風光明媚な横浜ベイエリアのランドマークを廻るコース（「美しい日本歩きたくなる道500選」公式ルートの一つ）が準備されています。イベントの趣旨に賛同する、パルセロナ五輪金メダリストの岩崎恭子さんと、俳優・渡辺大さんも参加者と共に歩きます。

「ウォーク・ザ・ワールド」は、世界の子どもたちの飢餓撲滅をめざして、毎年、世界各国で行われてい



©WFP/C Shirley

るイベントです。昨年は世界93カ国で実施され、55万人以上が参加。日本では1,482人が参加しました。4回目の開催となる今年は、第4回アフリカ開発会議（TICAD IV）に合わせ、特にアフリカの飢餓撲滅を訴えます。

【実施概要】

開催日時：2008年5月25日（日）

受付 09:00～

開会式 09:30～

スタート 10:00～

開催地：横浜みなとみらい地区（スタート会場：臨港パーク）

コース：5kmコース（臨港パーク→赤レンガパークを巡回するコース）、10kmコース（臨港パーク→赤レンガパーク→大さんばし埠頭→山下公園→港の見える丘公園を巡回するコース）

参加費：1,000円（募金・参加賞・保険を含む。）

※5km・10kmコース共通。小学生未満は無料（但し、チャリティーへの参加・参加賞・保険は無し。）

参加資格：大会主旨に賛同いただける個人・団体どなたでも

【参加申し込み方法】

①インターネットによる申し込み：

<http://www.sportsentry.ne.jp>（携帯電話可）

②電話による申し込み：0570-037-846（通話料は利用者負担）

受付：平日 10:00～17:30、土曜 12:00～17:00

※申込期間：5月14日（水）まで。定員の2,000人になり次第締め切ります。

参加申し込みに関するお問い合わせ先：

☎ 0120-711-951 受付時間：平日 10:00～17:30



©WFP

横浜市のアフリカ支援キャンペーン 「ヨコハマ・フォー・アフリカ」

横浜市は第4回アフリカ開発会議（TICAD IV）にちなんで、今年5月を「アフリカ月間」に決めました。この「アフリカ月間」の期間中、横浜ではシンポジウムやフェスタ、写真展、コンサートなど様々なイベントが展開され、市民がアフリカのことを知り、考えるきっかけとなるような様々な事業が目白押しとなります。

同時に、アフリカの将来に募金などで貢献する仕組みとして、アフリカ支援キャンペーン「ヨコハマ・フォー・アフリカ」を展開します。WFPもこの「ヨコハマ・フォー・アフリカ」に賛同し、横浜市と共同でいくつかの取り組みを行います。その一つが「アフリカのハラペコを救え。」キャンペーンです。このキャンペーンは、趣旨に賛同する横浜市内の店やレストラン等が「アフリカ支援メニュー」「アフリカ支援商品」などを提供してその売上の一部をWFPに寄付したり、店頭で「アフリカのハラペコを救え。」のキャッチコピーとマークが掲載された募金箱を置いたりすることで、横浜中でアフリカの飢餓撲滅を支援する機運を高めようというものです。なお、寄付金はWFPが行うアフリカでの学校給食支援に使われます。

すでに崎陽軒、TSUTAYA、ファミリーマート、インターコンチネン

タルホテル、パンパシフィック横浜ベイホテル東急、横浜ロイヤルパークホテル、ローソンなど、多くの企業が参加を決定しています。

もう一つの取り組みは、横浜市地球温暖化対策推進協議会が主催する「アフリカに届け！緑の環境募金」です。これは市内3カ所の動物園、山手西洋館、その他イベント会場などに設置された募金箱に募金するとワタ、パジル、インパチェンスといったアフリカ原産の植物の種がもらえる募金キャンペーンです。期間は3月26日から6月1日。集められた募金は、WFPが実施するアフリカでの植林プロジェクトに役立てられます。

もう一つの取り組みが、「はまっ子どうし FOR アフリカ」です。これは横浜のペットボトル入りの飲料水「はまっ子どうし」を、特別な「はまっ子どうし FOR アフリカ」キャンペーンボトルに入れて販売するものです。市内の取扱店舗や自動販売機などで買えるこのキャンペーンボトルの売上げの一部（1本あたり約1円）は、WFPがアフリカで行う学校給食プログラムをはじめとした食糧支援に役立てられます。

この機会に、皆さんも気軽にアフリカ支援に参加しませんか。



NHK が「国連特派員協会賞」受賞 賞金を WFP に寄付

国連の活動に関する優れた報道に与えられる「国連特派員協会賞」放送部門の金賞（最高賞）に、紛争で人道危機が続くソマリアの現状とWFPの食糧支援活動を取り上げたNHKのニュースが選ばれ、潘基文事務総長に表彰されました。受賞したのはNHKカイロ支局。賞金1万ドルが授与されましたが、取材班はソマリアにおけるWFPの活動に使ってほしいと、全額を寄付して下さいました。心よりお礼申し上げます。

また、取材班の一員であった元カイロ支局記者の別府正一郎さん（現

アメリカ総局）は2月、国際報道で優れた業績をあげた記者に贈られる「ボーン・上田記念国際記者賞」も受賞しました。別府さんはカイロ支局在任時、ソマリアのみならずケニアやスーダンなど中東・アフリカ各国で干ばつや紛争などの人道危機およびWFPの活動取材しており、アメリカ総局に転勤後も、中米での穀物価格高騰の影響やWFPに関するレポートを制作しています。報道されることが少ない途上国の現状に光を当ててきた別府さんのさらなるご活躍をお祈り申し上げます。

私たちの WFP 支援 松下電工株式会社

松下電工では、東京本社の人事部と松下電工労働組合東部総合支部が協力して、WFP 支援の社内活動を推進して下さっています。

東京本社 14 階社員食堂では、2007 年 12 月より、毎月 21 日を「『地球のハラペコを救え。』の日」として、日替わりスペシャルメニュー 2 品の代金に、それぞれ 20 円の寄付が上乘せされています。また、募金箱も設置され、食堂を利用する社員の皆さんに募金への協力が呼びかけられています。

食堂の前には、「地球のハラペコを救え。」マークをあしらった告知チラシが WFP のポスターと一緒に掲示され、スペシャルメニューが大々的に宣伝されています。告知チラシには、社員の方が作った「あなたの 20 円が子どもを救う」というキャッチコピーが躍り、行き交う人々の注目を集めています。そのキャッチコピーの効果もあってか、12 月と 1 月で合計 34,079 円の募金が集まるなど、『地球のハラペコを救え。』の日の滑り出しは順調で、社員の間で活動は徐々に浸透しているとのこと。

2 月 7 日には、東京本社の人事部と松下電工労働組合東部総合

支部の皆さんが横浜みなとみらいにある WFP のオフィスを訪問。国連 WFP 協会田邊専務理事へ同社の取り組みの様子をお話いただくとともに、12 月・1 月分のご寄付を贈呈いただきました。

松下電工の皆さんからの寄付は、WFP の学校給食プログラムに活用されます。『地球のハラペコを救え。』の日の推進担当者である人事部の小池澄子さんは、「これからもずっと、息の長い活動として継続して実施していきたいです」と、今後の抱負を語っていただきました。



© 松下電工労働組合東部総合支部

ハリウッドスターから多額の寄付



世界的に有名なハリウッド女優であり、WFPの飢餓撲滅大使でもあるドリュエ・パリモアさんが、3月3日、アメリカの人気テレビ番組「オプラ・ウィンフリー・ショー」に出演し、ケニアにおけるWFPの学校給食プログラムに個人で100万米ドルを寄付することを表明しました。

パリモアさんは、これまでに2回ケニアを訪問し、WFPが学校給食を配給している学校を視察しています。ナイロビのスラム街にあるスタラ小学校はパリモアさんが訪問したうちの1校ですが、この学校のある生徒は「家には食べる物が何もないことも多いので、給食があるのは本当にうれしい。勉強をして将来はお医者さんになりたいです。」と語っています。パリモアさんは番組の中で、「たった1杯のおかゆが子どもたちの人生を変えるのです。学校給食は子どもたちの教育、健康、未来を支えています。皆さん、どうかWFPに協力して、この子どもたちに手を差し伸べましょう。そして飢餓をこの世からなくしましょう。」と呼びかけました。

WFPは現在およそ70カ国で2,000万人の子どもに学校給食を提供

していますが、途上国には空腹のまま学校に通う子どもたちが5,900万人いることから、このすべての子どもたちに給食を提供することを目標としています。そのためにかかる費用は年間30億米ドルと試算されています。ジョゼット・シーランWFP事務局長もパリモアさんと一緒に番組に出演し、視聴者に学校給食への支援を呼びかけました。

また、3月13日には、ジョージ・クルーニーさんやブラッド・ピットさん、マット・デイモンさん、ドン・チードルさんら、映画「オーシャンズ」シリーズの面々が設立した人道支援団体「Not On Our Watch」が、WFPがスーダン・ダルフル地方で行っている「人道支援航空サービス」に50万米ドルを寄付しました。これは、WFPが運営している航空業務で、国連諸機関やNGOの職員などの人道支援者や救援物資をダルフルに運んでいます。治安悪化に伴い陸路での移動が大変危険になったことからこの航空サービスの重要性は増してきており、利用者はひと月あたり8,000人にも及びますが、資金難に陥り、追加資金を得られなければ3月末には運航を打ち切らざるを得ない事態に追い込まれていました。「Not On Our Watch」は去年も100万米ドルをこの事業に寄付しており、今回の寄付は二度目となります。



国連 WFP 協会 2007 年寄付実績報告

2007年度、WFP国連世界食糧計画日本事務所と国連WFP協会は、世界の飢餓問題について関心を持ってもらい行動を呼び掛けるため、「地球のハラペコを救え。」をテーマとしたキャンペーンを始めました。このキャンペーンに寄せられたご寄付は主に「学校給食支援」に使われるものとし、皆様のご協力をお願いしてきました。そして同年度に国連WFP協会へ寄せられた個人、企業・団体からの寄付額は、国連WFP協会設立以来最高となる、3億7,200万円あまりとなりました。寄付金の内訳は表の通りです。特に、一般個人の皆様からのご寄付が大幅に伸び、前年比でおよそ3倍となりました。「WFPの活動を支えてくださる皆様に、職員一同心から感謝の意を表するとともに、今後とも皆様のより一層のご支援、ご協力を賜りたく、お願い申し上げます」と、国連WFP協会専務理事・田邊邦典は、感謝の意を述べています。また皆様からお預かりしたご寄付の用途と成果については www.wfp.or.jp/kyokai/ann_report.html に詳細レポートを掲載しています。

2007年 国連 WFP 協会 寄付実績 (2007年1月～12月)

賛助会員 (個人)	¥9,620,295
賛助会員 (学生)	¥75,000
賛助会員 (団体)	¥16,840,310
一般協力者 個人	¥151,387,567
一般協力者 団体	¥69,072,453
その他 (匿名・募金箱など)	¥16,504,468
評議員 (個人)	¥566,345
評議員 (団体)	¥108,087,414
寄付額合計	¥372,153,852

ご入金/ご寄付のお願い

WFPは食糧支援を通じて「未来」を届けています。2006年、WFPは世界78ヶ国で8,780万人に400万トンの食糧を届けました。WFPの食糧支援活動にぜひご協力ください。

●会員となって国連 WFP 協会の活動を支えてください。

一般会員 (個人の立場で活動を支援) …年額一口5千円
 学生会員 (学生の立場で活動を支援) …年額一口2千円
 団体会員 (企業や団体などで活動を支援) …年額一口5万円

●ご寄付をお願いします。

世界中で展開されているWFPの食糧支援活動を一層充実させるため、日本の皆様にご寄付をお願いしています。お預かりしたご寄付はWFPローマ本部に送金されます。

*会費およびご寄付は次の郵便口座番号にご入金内容を明記の上お振込みください。
 口座番号 = 00290 - 8 - 37418
 加入者名 = 国連 WFP 協会

WFP 国連世界食糧計画日本事務所

〒220-0012 横浜市みなとみらい1-1-1 パシフィコ横浜6階
www.wfp.or.jp

国連 WFP 協会

〒220-0012 横浜市みなとみらい1-1-1 パシフィコ横浜6階
www.wfp.or.jp
 TEL . 045-221-2515 FAX . 045-221-2534